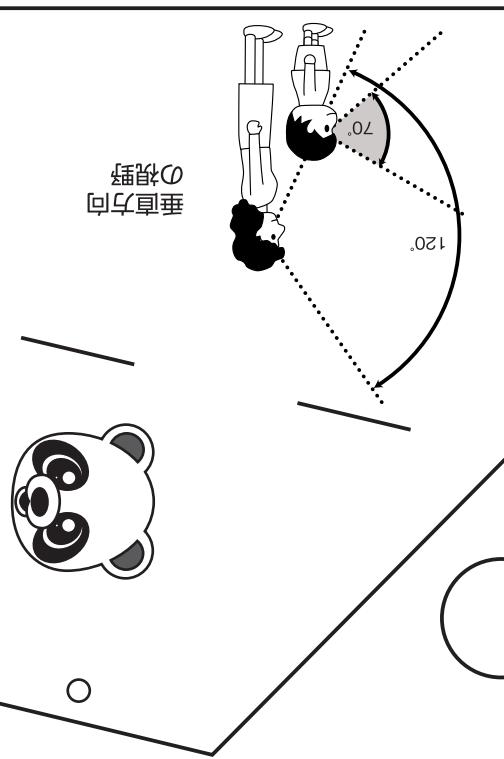


横浜市交通安全マスクット「まめるくま」



これだけしか 子どもには みえてない！

子どもの目線で教えることの必要性

大人は気がついても、子どもは気がつかない。

それは、子どもの視野の狭さと、子どもの目の高さが、大人に比べて低いことが見える範囲を狭くしています。

子どもの安全確認が大人よりも大変なことがよくわかります。

道路を渡る前には、まず「止まり」、体のむきをかえて右左をよく「見る」ことを、その場で繰り返し教えましょう。

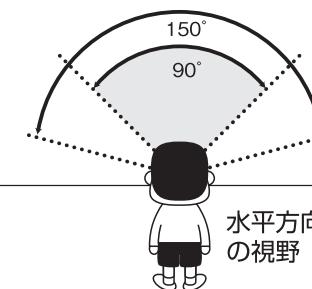
予想もつかない子どもの行動

子どもは大人が思いもよらない行動をとることがあります。ひとつのことについて注意を集中するほかのことが目に入らない。いろいろなことに注意を向けることが出来にくい。という子どもの特性からです。

チャイルド ビジョン

(幼児視界体験メガネ)

※下の絵は6歳児の例です。

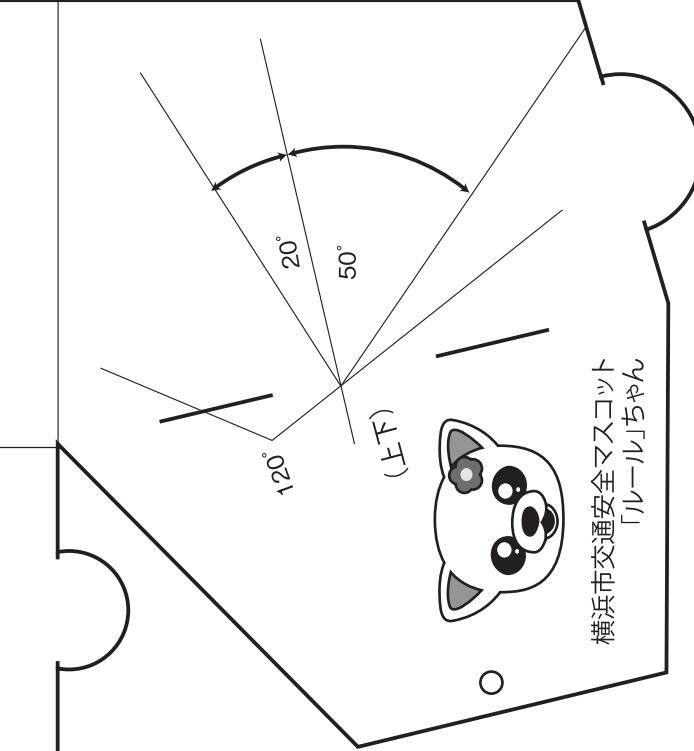


きりぬく

きりぬく

きりぬく

横浜市道路局

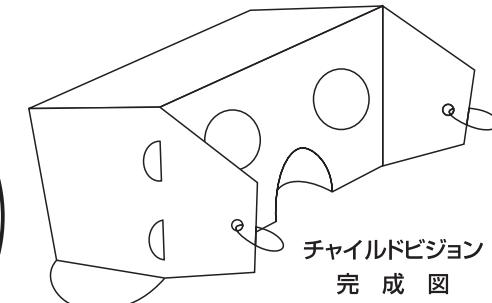


[作り方]

—— 切りとり線

—— 折り線

○ 耳のところに輪ゴムを通して
メガネのようにする。



チャイルドビジョン
完 成 図

このチャイルドビジョンは、子どもの視野を知るために横浜市が考案したものです。道路で使用する際は安全に十分注意してください。